

5 . 近代日本文学の変貌と大衆社会

- 教養主義の終焉 -

1 . 近代日本文学と教養文化

世界文学全集（欧米中心に編纂） 近代人の条件としての教養（古典的素養）

旧制高校生の愛読書

倉田百三 『愛と認識との出発』

西田幾多郎 『善の研究』

阿部次郎 『三太郎の日記』

学生の夏休み：閑静な田舎で読書しつつゆっくり過ごす

昼間は海水浴・夜は読書

勉強会と称して禅寺で合宿

1938年に文部省が実施した『学生生徒調査』

「平素閲覧せる雑誌」の学校類型別結果

すくなくとも帝大生の三人に一人、旧制高校生や高等専門学校生も五人から10人に一人は、総合雑誌（『中央公論』『改造』『日本評論』）を読んでいた。学生文化と総合雑誌とは密接に関わっていた。

岩波文化：昭和初期には「岩波ボーイ」という言葉ができていた。教養主義文化の象徴としての岩波書店の出版物の存在。

岩波茂雄(1881生まれ)、東京帝国大学選科における人脈、

古本屋岩波書店の出版業としての成功（漱石の『こころ』の自費出版。波多野精一、西田幾多郎、朝永三十郎、桑木厳翼らの教授陣を顧問にする 哲学書の岩波書店。清水幾太郎、丸山眞男、都留重人らの平和問題談話会の活躍の舞台としての『世界』）

欧米書籍の翻訳文化偏重（官学アカデミズムの学問ヒエラルキーとの一致。官学アカデミズムでは、欧米の学説研究がもっとも威信が高く、つぎが欧米の実証的研究の紹介、日本社会についての実証研究はもっとも下のランクとなる。）

2 . 教養エリートの存在意味

エリート階層の形成と再生産、旧制高校と帝国大学

エリートと非エリート

遅れた近代化・急速な上からの近代化の要請

cf. ドイツの教養市民の形成

大学の機能

「旧制高等学校になると、教師の半数以上は帝国大学出身の文学士だった。文学部卒の教師によって感化された学生が旧制高校や文学部に進学し、その後教職について、教養主義を再生産するという循環が成り立っていた。」（竹内、96）

大人文化と学生文化との連続性

3. 第二次世界大戦後の大衆文化への移行

旧制大学から新制大学へ

大学はもはや教養的エリートの養成機関ではなく、急速に大衆化してゆく（とく、1970年代以降）。エリートの不在・文化の水平化。

マスコミ文化（学生の読書傾向の変化：新聞・総合雑誌 通俗雑誌、テレビ、漫画）

近代文学から現代文学へ

4. 文豪の消滅

古典の後退・学生の古典離れ

文庫の時代へ 大衆文学（娯楽性）文学賞の乱立

5. 大衆社会とキリスト教文学の可能性、平凡な人間の存在意味

椎名麟三：実存主義文学、ドストエフスキーに傾倒、1950年12月22日に日本基督教団上原教会で赤岩栄より洗礼を受ける（39才）

文学者の使命「それはただ、復活のリアリズムをあらゆる場所に実現させたいということなのである」（「非正統派の弁」1957.2）「世の中に味方するという仕方で、この世の中を愛し、その自由を守るという仕方で、あなたの福音を芸術のなかで証しします」（「祈り」1963.8.15）「ほんとうの自由」が「現実にはない」。「表現というのは、描写し説明し得ないものに関係をもっている」（「表現について」1960.10）

表現不可能なものの表現、「真の真理というものは、は間接的にしか伝達し得ない」「信仰におけるもっとも成功した伝達可能性は、沈黙しかないのではないか」（「真理は伝達できるか」）

キルケゴールの間接的伝達の問題。

「文学は、間接的な伝達にすぐれた特色をもっており、その意味、本来的な真理を伝達する唯一の形式だといっている」

cf. ティリッヒの「広義の宗教」

6. 『美しい女』（1955）のモチーフから

『美しい女』の自注：「イエス・キリストからあたえられた恵みとしての自由に何とかして表現を与えたい」「絶対性への挑戦」「労働者の生活に起る絶対性を書くということ」

関西の一私鉄に勤務する労働者（19才で勤務以来、30年近く働いて47才になる）の自伝的な物語。「普通」や「平凡」な生き方へこだわる「一度も自分であったことわない」「おかしな」男（木村「私」）と三人の女性たち。

倉林きみ：盗癖のある娼婦、他人に心を開かない、自暴自棄な態度（火傷の治療もしない）

飯塚克枝：同じ会社の出札係、「私」と結婚するが、自尊心が強い克枝と私とは

うまく行かない。後に無気力になり、次々の男たちと関係する。

ひろ子：自殺未遂を繰り返す女。「私」は一端このひろ子と一緒にしようとするが、土壇場で彼女を裏切り、克枝を迎えに行く。

「美しい女」：人間存在がその平凡さにおいてもっている生きる意味を知らせてくれる存在。平凡さの自覚が、あきらめではなく、積極的な意味へとつながること。平凡な自己における意味の自覚という宗教性。

<文献>

竹内 洋『教養主義の没落 変わりゆくエリート学生文化』中公新書

筒井清忠編 『新しい教養を拓く - 文明の違いを超えて - 』岩波書店

野田宣雄『教養市民層からナチズムへ - 比較宗教社会史のこころみ - 』名古屋大学出版会